

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制の課程は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高等学校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等の生徒等、さまざまな学習目的や動機を持つ生徒の学び直しの場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

本校に入学する生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、生徒が望む学習と幅広い進路選択ができるよう多様な選択科目を設け、必要な教科で少人数授業を実施するなど教育課程編成の工夫に努める。また、適切な授業規律の中で授業内容や指導方法、学習教材を工夫することにより、生徒の基礎学力の定着を図る。さらに、素朴な疑問から始まる興味・関心を大切にしながら向学心を高め、科学的な視点で考え問題を解決する能力を育成することにより、学力の一層の伸長、コミュニケーション力の向上をめざす。また、社会の変化や生徒・保護者等の意見やニーズを踏まえて、生徒が社会で必要とされる学力を身につけられるよう、本校の教育システムの更なる改善・充実に努める。

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

学年制の良さを活かした学校生活、ホームルーム活動をはじめ学校行事や部活動などの活性化を図ることにより、個々の生徒の自主性を高め、生徒相互の連帯感や協調性を育て、自分自身を、そして、お互いを尊重しあう精神を養う。あわせて、本校で共に学ぶ中で、違いを認め合い共に生きることの大切さを理解させて、人権感覚を養うとともに、種々の人権学習や体験学習を通じて、グローバル社会において自他の人権を守ることでできる人間の育成に努める。

修学の志を持続させるため、全教職員が個々の生徒の課題や背景を踏まえた上で生徒のサインを的確に捉え、きめ細かく、かつ迅速で適切な対応に努める。さらに、家庭との連絡を密にして生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、勤労と勉学が両立できる安定した生活を確立する指導を行い、社会で必要とされる力の育成をめざし、生徒が自己実現を行うための支援に努める。卒業後に進学・就職を希望する生徒の進路実現をめざしての指導に加え、在学中から就労することで規則正しい学校生活を送ることができるよう、多くの在校生が外部機関との連携を図りながら就労の環境整備・指導に努める。

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

教職員全員が課題を共有し、教職員一人ひとりの能力を最大限に発揮して、自主的・自律的に教育活動を推進するため、機動性と透明性の高い組織体制の改善・充実に努め、組織的・機能的な運営に努める。あわせて、定時制の教育システム等について、授業公開や校外研修に加え、校内研修の実施やOJTにより研鑽を重ね、教職員の資質向上に努める。

学校ホームページ等を活用し、保護者、雇用主や地域、中学校等に学校の教育目標や教育活動の実施状況などについて、幅広く積極的な情報提供や働きかけを行い、地域とつながる学校づくりを推進する。また、家庭、地域、中学校、関係機関等との相互理解・相互協力による良好で有効な連携体制の構築を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【教職員】(回答数)(回答数 17 : 77.3%) (昨年 100%) 准校長による学校経営について厳しい意見が多く、次年度の人事危機管理・リーダーシップの改善が必要。(学校運営での校長のリーダーシップが発揮されている：-1.21、教職員の意見が反映されている：-1.04、教職員が意欲的に取り組める環境にある：-0.72) 【保護者】(回答数 25 : 12.9%) (昨年 9.7%) 生徒への指導について肯定的意見が多いが、母集団が少ないことが継続的改善を要する。(子どもは学校へ行くことを楽しみにしている：+0.23、先生は子どもを理解している：+0.18、授業参観や学校行事へ参加したことがある：-0.57) 【生徒】(回答数 222:48.8%) (昨年 71.2%) すべての項目で肯定的意見が前年度よりポイントが上昇した。 (担任以外に保健室や相談室など相談できる先生がいる：+0.45) など授業以外での相談・進路・奨学金などの支援教育で評価が高い。</p>	<p>第1回 (平成 26 年 6 月 24 日) ① 平成 26 年度学校経営計画について説明 ② 学校状況説明 ③ 次年度教科書選定 ④ 意見・提言 保護者・家庭と連携と密接にすることが良い。授業など実際の生徒の様子を見たい。</p> <p>第2回 (平成 26 年 12 月 11 日) ① 授業見学・給食試食体験 ② 学校経営計画の進捗状況 ③ 学校教育自己診断アンケートの実施について ④ 意見・提言 生徒一人ひとりへのきめ細やかな授業・指導ができています。携帯電話も禁止でなく、授業で積極的に活用することも可能。</p> <p>第3回 (平成 27 年 2 月 24 日) 予定 ① 学校教育自己診断について報告 ② 第2回授業アンケートについて報告 ③ 平成 26 年度学校経営計画及び学校評価について報告 ④ 平成 27 年度学校経営計画について ⑤ 意見・提言 ①で、「校長のリーダーシップ」について改善を期待する。部活動加入率の低下は在籍生徒数が前年度より数十名減少したことが背景にあった。</p> <p style="text-align: center;">5</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実	ア 教育課程のさらなる充実 (SSH 事業指定をめざして)	論理的思考や探究活動に興味・関心を持つ力、自ら調べ考える力、知識・情報をもとに解決方法を見出す力を持つ生徒を育成するための教育内容の研究・実践 SSH の趣旨を前提とした教育活動の充実 異文化理解 (国際理解) 教育の推進	・生徒による研究・発表活動 ・ICT 活用による授業の研究・実践 ・異文化交流の研究・実践 ・帰国渡日生徒への支援	・情報や商業では生徒同士の発表・評価などアクティブラーニングの実践取組が進んだ。(◎) ・多くの教科で ICT を常時、活用した授業を展開し、生徒が積極的に授業に取り組んだ。(◎) ・SSH の趣旨に沿った SS 探究 2 講座を開講 (○) SSH 事業の定時制単独申請は総合的な判断により見送った。(△) ・異文化交流は各授業では実施したが直接の体験の場を今年度は実現できなかった。(○) ・帰国渡日生徒への外部講師による日本語指導を継続して当該生徒の就学につなぐことができた。中学校からも帰国渡日生徒への指導が高く評価されている (◎)

府立春日丘高等学校

	<p>イ 授業力の向上</p> <p>ウ 各種資格・検定取得支援(生徒の進路実現・達成感充実)</p>	<p>授業力の向上、「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業の実践・研究 ユニバーサルデザインな授業の実践・研究 相互授業見学週間・公開研究授業の実施 職免研修(教特法 22 条)成果研修会の実施</p> <p>ワープロ検定、簿記検定、表計算検定等各種資格・検定への啓発と資格取得支援を推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート(授業満足度)の向上 習熟度別少人数展開講座の開講 授業公開週間及び、研究授業・協議、研修報告会を計年 3 回開催 <p>・検定合格者(前年比 5%増)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート結果は全体で 3.43 ポイント 生徒への分かる授業をめざす観点で高評価(◎) 数学、英語で習熟度別少人数展開授業を実質全 4 学年で実施できた。(◎) 公開授業週間(6・11 月)や習熟度別少人数授業の公開授業で数学「漸化式」を行い相互授業見学を進めた(◎) 4 月授業参観、公開授業で福井高、島本高と相互授業見学を実施(計 45 名)他にも保護者が来校。(◎) 検定受験者 51 名(合格率 56%) (○)
<p>2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援</p>	<p>ア 生徒の自主性・協調性・社会性の向上</p> <p>イ 基本的な生活習慣の確立</p> <p>ウ 生徒状況の把握・情報共有、家庭連携</p> <p>エ 生徒の自己実現の支援</p>	<p>生徒会、クラス代表等による校内外課題の研修会・交流会の実施 部活動の充実・ボランティア活動の検討・実施 生徒作品や研究成果の公開発表の拡充</p> <p>授業規律の確保(校内外巡回の実施) 登校時、下校時指導 禁煙教育、禁煙支援の充実 食育の推進、健康・体力づくりの支援</p> <p>4 月を懇談強化月間とし、生徒や保護者との懇談を通して連携協力関係を確立 出身中学校等との連携強化 保護者や中学校教員等の公開授業参観・部活動見学を開催 支援教育委、スクールカウンセラー、S S W 等を活用した相談機会・体制のさらなる充実</p> <p>計画的・系統的なキャリア教育の充実 就労・社会参加意識の醸成 就労支援事業を活用したカウンセリングやコーディネートによる就職希望の実現、必要な生徒への職業紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会リーダー研修実施 年 2 回 他校との生徒会交流会等の開催 (自己診断項目)自尊感情、達成感等の向上(前年比 10%増) 部活動参加生徒率の増加(前年比 5%増) 行事参加率(前年比 5%増) 校内外での生徒作品・研究の公開 生徒の学校周辺清掃活動年 6 回 <ul style="list-style-type: none"> 授業日の校内外巡回の実施 全登校日に実施 喫煙生徒数(前年比 10%減少) 給食喫食者率(前年比 5%増) 健康診断等受検率の向上 <ul style="list-style-type: none"> 全生徒との懇談実施 年 2 回開催の中高連絡会での生徒情報交換率の向上 年 3 回計 50 名以上の保護者・中学校教員等の参加 S S W による研修・ケース会議を年 12 回以上開催 <ul style="list-style-type: none"> 進路指導 HR(総合的な学習)の実施 在校生の就労状況の向上 就労支援のための外部機関等との連携による進路希望の実現 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会リーダー研修 2 回(5・1 月) 本校が中心となって企画してきた定時制生徒会交流会が定着、2 回実施し 98 名が参加した(◎) 自己診断結果では 3.0 ポイント(○) 芥川高・本校など近隣生徒会によるボランティア活動も定着し 6 校に拡充した(◎) 生徒会・部活動参加者が 12 月地域イベントに参加して地域連携を深めた(○) 秋季発表大会へ作品・音楽部参加(○) 部活動加入率(46.2%) (△) 行事参加率 体育祭(57%) 球技大会(61%) 文化祭(55%)で増加(○) <ul style="list-style-type: none"> 全登校日に実施。毎時間の校内外巡回で校内喫煙はほぼ皆無。22 時 45 分まで下校指導の実施で外部からの生徒マナーに関する苦情もほぼ皆無を維持できた(◎) 登下校時の挨拶は生徒はほぼ 100%(◎)できている。 喫煙生徒数 現在調査中 給食喫食率 12.7%で増加(◎) 健康診断等の受診率 内科検診 87.7%(○) <ul style="list-style-type: none"> 各担任が、ほぼ全生徒との懇談を実施(○) 中高連絡会を 4・11 月に 4 回実施。計 70 中学校・施設と連絡・連携が進んだ(◎) 授業参観を 4/26、授業参観週間を 2 回設けた。参加者は延べ 50 名前後であった。(◎) SSW15 回、SC11 回の相談研修を実施(◎) フェルマータによる居場所カフェとして「春定なんでも相談室」を 5 月から開設。21 回実施し生徒延べ 180 名、保護者・教員 25 名が活用(◎) <ul style="list-style-type: none"> 各年次で LHR で外部講師や校外体験などキャリア教育を実施(◎) NP0「D×P」が 1 年次と 3 回連携(◎) 1 年次の就労率が 14%(4 月)から 67%へ(○) 就職希望者内定率 100%(○)
<p>3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>ア 組織力向上支援のための教職員研修や支援体制の充実(学び合い支え合う雰囲気づくり)</p> <p>イ 学校運営組織の活性化・効率化</p> <p>ウ 開かれた学校づくりの推進(中高大連携、地域連携)</p> <p>エ 定時制の学校環境改善の推進</p>	<p>校内初任者等(含常勤講師等)研修の充実 地区初任研、定通初任研等参加奨励 産業医等による支援相談体制の充実</p> <p>PDCA サイクルを活用した校務運営活性化 ICT 活用による一層の校務の効率化 問題事象への組織的な対応体制充実 担任、支援教育コーディネーター、S C、S S W 等による生徒支援組織の充実 全日制との連携・協力体制の充実</p> <p>WEB ページによる情報発信の充実 学校説明会等広報活動のさらなる充実 中高連絡会・学校公開の充実 立命館大学等との新たな連携 地域との交流の充実</p> <p>学校教育自己診断(保護者)回収率の改善 振興会の活性化 後援会活動の整備・充実 学校協議会の内容の工夫 安全衛生委員会の活性化 教職員防災研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な開催 参加可能な体制・調整 個別面談、相談機会・体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> 学校経営改善案の企画・推進 校内体制・外部連携の充実 必要な生徒へのカウンセリング、ケース会議の充実 <ul style="list-style-type: none"> 全定合同連絡会及び協議の充実 <ul style="list-style-type: none"> アクセス数の 10%UP、週 1 回の更新 学校説明会を年 3 回実施 対象中学校等の拡大 大学連携事業案の検討・企画調整 地域イベント参加・公開講座の充実 <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート回収率の向上 振興会会員の行事来校者 10%UP 後援会による支援実施 第 3 者評価者の学校行事参観 安全衛生委員会の提言の実現 教職員防災研修 年 2 回実施 	<ul style="list-style-type: none"> 校内初任者研修でなく、幅広く職員研修(SSW, AED 等)を計 20 回以上実施。(◎) 初任教員は地区や定通初任だけでなく連携する大阪大学でも研修に可能な限り参加。(○) 産業医による健康相談を毎月実施(○) <ul style="list-style-type: none"> 10 月に各部・委員会等の中間まとめ作成(○) 2 月に最終報告し、次年度へ反映を予定。 当該生徒への個別支援計画を策定できた(○) SSW・SC による研修、ケース会議を計 26 回実施。外部関係機関との連携し課題に迅速適切な解決が図れている。(◎) 全定連絡会を 3 回、施設管理調整(△) <ul style="list-style-type: none"> アクセス件数 9600(前年度 9700)(△) HP は平均週 1 回以上、更新(○) 中高連絡会(4・11 月)計 70 校来校(◎) 学校説明会 3 回実施 計 73 名来校(◎) 4 月開学予定の立命館大との連携企画(○) 12 月、地元中学校イベントへ参加、土曜開講に地域の方が受講。(○) <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート回収 12.8%(3.1%増)(○) 振興会総会参加 3%(△) 後援会から横断幕、部活動遠征費補填(◎) 学校協議会を 6・12・2 月開催(○) 授業見学、給食試食、卒業式参列(○) 随時助言いただいたが、産業医の委員会出席調整が難しい。(△) 年 2 回実施の避難訓練の内、1 月に夜間での地震を想定した防災訓練を実施(○)